

TAKE FREE

ご自由にお持ちください

水戸赤十字病院 広報誌

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸3-12-48

TEL.029-221-5177(代表)

<http://www.mito.jrc.or.jp>

2025.11
Vol. 56
【隔月刊】

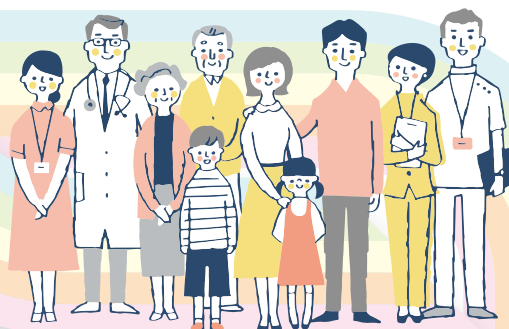


プレゼント付
アンケート企画開催中!

詳細はP7へ

虹

虹の由来／架け橋となるような広報誌を目指します



10月8日、小美玉市で実施された「令和7年度百里空港航空機事故対処総合訓練」に、当院から麻酔科の高久副部長をはじめ8名の職員が参加しました。

航空機事故を想定したこの訓練は、関係機関および航空自衛隊百里基地との連携強化や、航空機火災の消火、迅速かつ円滑な人命救助・医療救護活動の実施を目的としています。

当院救護班は、負傷者に対する応急処置の実施など、実践的な医療救護活動に従事しました。

P2:上部消化管外科紹介 P3:皮膚科紹介 P4:知られざる細菌検査室のお仕事、リハビリテーション科のご案内
P5:当院職員が災害救護訓練に参加しました! P6:登録医紹介 P7:読者アンケート
P8:院長コラム、第28回地域医療支援病院運営委員会を開催しました、アイシティecoプロジェクトへのご協力に感謝!





診断、内視鏡治療、外科的治療、化学療法まで

当科で一貫した医療を提供しております

当科では食道がん・胃がんに対する内視鏡治療、開腹手術やロボット支援手術といった外科的治療に加え、2024年12月に新設したリニアック棟での放射線治療、さらに消化管腫瘍の化学療法に特化した医師を新たに迎え、より精度の高い集学的治療を提供できる体制を確立しました。これらの治療法の中から、患者さま一人ひとりに最適な治療を一貫して提供できることが当院の特徴です。



上部消化管外科部長
清水 芳政

【専門分野】消化器外科一般

【認定資格】日本消化器内視鏡学会指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器・一般外科)、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot専門医(国内A級)、日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術認定プロクター(消化器・一般外科)、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ほか

上部消化管外科副部長
小根山 正貴

【専門分野】消化器外科(食道・胃・肝・胆・膵・ヘルニア)

【認定資格】日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医、日本内視鏡外科学会 技術認定医(消化器・一般外科)、日本消化器病学会 消化器病指導医、日本消化管学会 胃腸科認定医・指導医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 ほか



◆胃がん治療について

当院は日本胃癌学会から胃がん治療における施設認定を受けており、内視鏡の粘膜下層剥離術、内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた低侵襲手術、抗がん剤治療などガイドラインに準じた専門的な治療を提供しています。

当院は2016年3月に、茨城県で初となる胃がんに対するロボット支援手術を導入しました。これまで300例を超える実績があり、今後もより安全で精緻な治療を提供してまいります。

◆食道疾患治療について

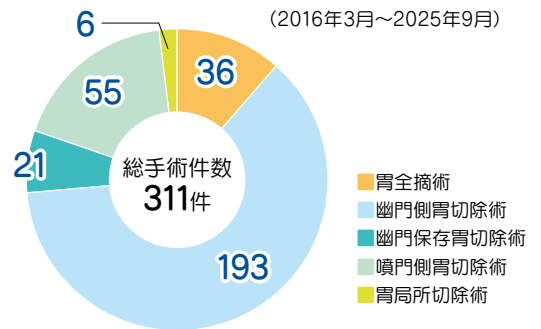
当科では2025年1月から食道専門外来を開設しました。食道がん、逆流性食道炎、食道アカラシア、食道裂孔ヘルニア、食道憩室など、良性・悪性にかかわらず、様々な食道疾患の診断、治療を提供しています。

現在、食道がん治療は ①手術 ②抗がん剤治療 ③放射線治療 を組み合わせて行う集学的治療が主流であり、当院ではすべての治療が可能です。

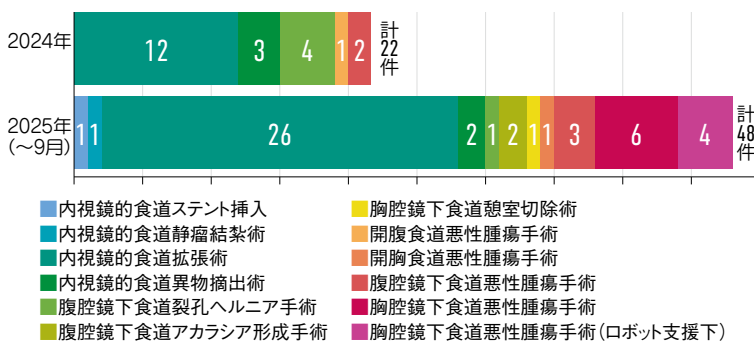
また食道手術は、食道外科専門医資格(2025年10月時点で県内2名のみ)を保有する小根山医師を主軸とするチームで、より安全で質の高い治療を提供できる体制を整えています。2025年6月から、茨城県で初となる食道がんに対するロボット支援下食道切除術を導入しました。

胃がん ロボット支援下手術実績

(2016年3月～2025年9月)



外科 食道疾患手術実績 (2024年1月～2025年9月)



食道専門外来の詳細はこちら▼



ロボット支援下食道切除術の初例は、慶應義塾大学の松田 諭 専任講師(写真右)を招へいし、万全の体制で行いました。

◆上部消化管外科からのメッセージ

当院では、胃や食道の良性・悪性疾患に対し、患者さまの「生活の質(QOL)」を第一に考えた治療に取り組んでおります。

ロボット支援下手術の導入により、安全性が高く、身体への負担が少ない手術が可能となり、合併症のリスク低減や早期回復が期待できます。また、地域の医療機関と連携を密にし、患者さまにとって最適な医療の提供を目指すとともに、地域全体の医療の充実に尽力しております。気になる症状がありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



良性・悪性にかかわらず、様々な皮膚疾患に幅広く対応しております



皮膚科には多くの疾患があり、年齢や疾患の状態も様々です。多くの選択肢の中から、患者さま一人ひとりの状況に応じた、適切な医療を提供できるように心がけています。

◆当院の皮膚科医

河原 望 医師

(写真左)

【専門分野】皮膚科一般

伊藤 美佳子 医師

(写真中央左)

【専門分野】皮膚科一般

【認定資格】

日本皮膚科学会専門医

小林 桂子 皮膚科部長

(写真中央右)

【専門分野】皮膚科一般

【認定資格】日本皮膚科学会専門医、
日本アレルギー学会専門医

藤井 忠賢 医師

(写真右)

【専門分野】皮膚科一般

◆当院に特徴的な診療

・分子標的薬（低分子化合物 生物学的製剤）

当院は、様々な疾患の病態に合わせて開発された、効果の高い分子標的薬の承認施設です。

アトピー性皮膚炎、慢性蕁麻疹、結節性痒疹、円形脱毛症、化膿性汗腺炎などの重症または難治な症例に有効であり、個々の病状に応じて、最適な治療法を選択します。

・アレルギー疾患

アレルギーは、食品や薬剤、日常生活で触れる様々な製品によって引き起こされる可能性があります。

即時型、遅延型のタイプがあり、症状に応じて、採血、プリックテスト、皮内テスト、アナフィラキシー運動負荷試験発汗テスト、パッチテスト（金属、アクリル樹脂、薬剤、スキンケア製品等）などの検査によって、アレルギーの原因を調べます。

・その他

上記以外に、発汗検査や、紫外線アレルギー・光線過敏症を診断するための紫外線検査も実施しています。

・紫外線治療

当院では、ナローバンドUVBとエキシマライトによる紫外線治療を行っています。

・ナローバンドUVB：全身に紫外線を照射する機器です。

・エキシマライト：手のひらサイズの範囲に部分的に照射する機器です。

これらの治療は、白斑、アトピー性皮膚炎、乾癬、痒疹、掌蹠膿疱症、皮膚リンパ腫などの皮膚疾患に有効です。

・皮膚腫瘍

ダーマストコピーや病理組織検査を用いて、良性・悪性の皮膚腫瘍を診断します。

毎週水曜日の午後に皮膚腫瘍の専門外来を設けており、筑波大学病院の医師が診療を担当します。局所麻酔で対応可能な手術は当科で行い、それ以外のケースでは、筑波大学病院や当院の形成外科と連携して治療を進めます。

また、皮膚の悪性腫瘍で緩和ケア病棟をご利用いただくことも可能です。

◆皮膚科からのメッセージ

当院の皮膚科は、4名の医師が担当しています。難治性の疾患や詳しい検査をご希望の方は、お気軽にご相談ください。幅広い疾患に対応していますが、必要に応じて、院内の他科や近隣の医療機関、大学病院と連携しながら診療いたします。



知られざる細菌検査室のお仕事

～耐性菌と日々向き合う、見えない現場～

病院の一角で、命を守るための大切な仕事があります。それを担っているのが、私たち細菌検査室の臨床検査技師です。

血液や尿など患者さまの検体を顕微鏡や「培地」を使って調べ、病気の原因となる細菌を見つけます。

近年、薬が効きにくい“耐性菌”が注目されており、感染が広がると重い症状を引き起こすこともあります。私たちはこの目に見えない小さな存在をいち早くとらえ、院内感染防止に役立てています。

細菌を育てる「培地」は、菌にとっての“生活の舞台”です。食事や寝床の役割を持ち、菌が暮らし始めると色や模様が変わります。その特徴から正体を推理できるのです。

さらに高性能な分析機器と臨床検査技師の知識を組み合わせ、どの抗菌薬が効くかを調べ、治療へとつなげます。

日々、小さな存在と向き合うこの仕事は、患者さまの命と病院全体の安全を静かに支えています。



▲BTB寒天培地上の大腸菌(*Escherichia coli*)



▲血液寒天培地上の黄色ブドウ球菌(*Staphylococcus aureus*)

リハビリテーション科のご案内

～一人ひとりのための明るい回復の場所～



当院のリハビリテーション室は大きな窓から光が差し込み、明るく奥行きがあり開放感あふれる空間です。リラックスしてリハビリに集中できる環境で、患者さまの回復をサポートします。

リハビリテーション科では、整形外科疾患はもちろん、高齢や病気による機能低下、がん治療などによって生じた身体的・精神的な障害に対し、機能回復と日常生活動作の改善を目指した支援を行っています。

リハビリ専門医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士といった専門スタッフが、他診療科の医師や看護師、医療ソーシャルワーカーなどの多職種と連携し、患者さま一人ひとりに合わせたリハビリテーションプログラムを提供します。

リハビリテーションは、病気やケガの後にできるだけ早く始めることがとても大切です。まずはベッドサイドから始め、徐々にリハビリテーション室での本格的な訓練へと進めていきます。

病棟の近くにはサテライトリハビリ室を設置し、術後の早期離床に役立てています。こちらでも窓から見える景色が、患者さまの気分転換やモチベーションの向上につながっています。



▲リハビリテーション室



▲サテライトリハビリテーション室

当院職員が災害救護訓練に参加しました!



令和7年度大規模地震時医療活動訓練に参加しました

令和7年9月5日から6日の2日間にわたり、当院のDMAT(災害派遣医療チーム)隊員5名が訓練に参加しました。当訓練では、日本全国341病院から参加した約360のDMATチームが、北海道、青森県、岩手県、宮城県の各地域を拠点とし、大規模な地震災害の発生を想定した実働訓練に取り組みました。

当院DMATは青森拠点にて、被害状況の確認や支援活動、通信機器の活用、医療搬送、関連機関との連携訓練などを行いました。



鈴木救急科学長
(統括DMAT/
日赤災害医療
コーディネーター)

当院DMATチームは、保健医療調整本部で八戸医療圏の搬送調整を担当しました。患者を安全かつ迅速に搬送するため、搬送先だけでなく、ドクターヘリや救急車などの手段とルートを実タイムで選定するのは、非常に実践的でした。県や他医療機関との密な連携と情報の管理・統制が、混乱する状況下でいかに重要かを痛感しました。私はこれまで、被災現場で医療支援を行うことが多かったもので、大変勉強になる訓練でした。



当院は保健医療調整本部で



各施設・避難所からの情報をもとに被害状況を整理し、搬送先やルートを調整しま

令和7年度日本赤十字社茨城県支部救護班要員研修(応用編)に参加しました



令和7年9月17日、常総市生涯学習センターで開催された救護班要員研修に、当院から整形外科の田山医師をはじめ計23名の職員が参加しました。

地震災害の発生による被害を想定し、参加者は「救護班」と「日赤現地災害対策本部」の二手に分かれ、緊密に情報共有を行いながら、それぞれの役割に応じた救護活動にあたりました。



高橋看護師長(救護班リーダー)

救護班は、避難所のアセスメントと巡回診療を実施し、医療救護活動におけるCommand and Control(指揮と統制)への理解を深めました。常総市は2015年に鬼怒川決壊による水害を経験していることもあり、訓練に参加した地元ボランティアの方々は災害への意識が高く、実践さながらの質の高い訓練となりました。



▲救護班員は避難者の体調を確認し、本部へ傷病状況を報告しました。



加藤係長(日赤災害医療コーディネートスタッフ)

災害対策本部では、各避難所の傷病者状況の分析や、それに基づいた救護班への指示出しなど、災害医療コーディネートを行う上で不可欠な情報管理など一連の流れを訓練しました。使用するツール等は年々変化するので、一度研修をして終わりではなく、定期的な開催が重要であると改めて感じました。



▲各避難所の傷病者状況をもとに、救護班への指示出しを行いました。

水戸赤十字病院登録医紹介

当院の基本方針である「地域に愛され、信頼される病院」「安全かつ良質な医療の提供」を推進するための心強いパートナーとなる登録医の先生をご紹介します。

さわ西クリニック

これまでに培ってきました多くの臨床経験を生かし、良質な医療の提供とともに、かかりつけ医として、地域の皆さまの健康に少しでもお役に立てますよう努力していきたいと存じます。

些細と思われることも相談に乗れるクリニックになるよう、スタッフ一同、親しみやすく頼れる診療所を作り上げたいと思います。また、水戸赤十字病院をはじめ、他の医療機関へ診療提携を密に行い、患者さまにとってより良い医療を提供できるよう努力していきたいと考えております。



《当院紹介》

腹部超音波検査・頸動脈超音波検査・X線検査・血液生化学・検尿・光学顕微鏡・簡易スパイロメトリー等の機器を院内に備え、その他膀胱鏡検査・尿流検査等、泌尿器科に特有な検査も行い診療にあたっています。

前立腺肥大症、前立腺癌、尿管結石症、過活動膀胱、膀胱炎、尿道炎、膀胱留置カテーテルの管理、高血圧・脂質異常症・糖尿病や呼吸器疾患、皮膚疾患などのプライマリ・ケアを行っています。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	●	●	休	●	●	●	休
14:00~18:00	●	●	休	●	●	▲	休

▲：土曜日診療17:00まで

住 所：ひたちなか市高場5丁目4-20(駐車場あり)

T E L：029-354-3700

診療科：内科、泌尿器科、皮膚科



院長
鈴木 謙一 先生

HPはこちらから!



メディカルGPクリニック横堀

私の座右の銘は“鬼手仏心”。今まで、鬼の手を持って手術で病巣を摘出し、仏の心で患者さまを診てまいりました。この気持ちは38年間、まったく変わっていません。当診療所は小さなクリニックで、大病院ではありません。できることは限られています。しかしながら、当医院では責任を持って、世界レベルの手術・胃大腸力メウをさせていただきます。また、心を込めて診療させていただきます。



メディカルGPのGPとは、欧米・オセアニアにおいてのGP(general practitioner)家庭医・開業医という意味です。

どうぞ、お気軽にご来院いただければ幸いです。

《当院紹介》

- ・大腸ガンの早期発見・早期治療は苦しくない大腸力メウで! 日帰りポリープ切除が可能!【日本消化器内視鏡学会専門医・指導医】
- ・痔疾患の日帰り手術が当たり前前の時代へと日本国内に普及させる!【日本大腸肛門病学会専門医・指導医】
- ・乳がん早期発見・早期診断は当クリニックで!【日本乳癌学会認定医】

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~11:00	●	休	●	休	●	●	休
11:00~15:00	手術・検査						
15:00~16:30	●	休	●	休	●	※	休

※第3以外は手術。土曜診療はホームページからご確認ください。

住 所：那珂市横堀1291-29(駐車場あり)

T E L：029-298-3922

診療科：内科、外科、肛門外科、消化器内科、乳腺外科



院長
伊藤 生二 先生

HPはこちらから!





受診の際にはマイナ保険証をご利用ください

受診時にマイナ保険証をご利用いただき、必要な情報提供に同意することで、次のようなメリットがあります。

- 特定健診情報や他医療機関の診療情報を当院の医師が閲覧でき、より多くの情報に基づいた適切な診療を受けることが可能となります。
- 高額な医療を受けることになった際、限度額適用認定証がなくても、限度額を超える支払いが免除されます。

詳しい制度については厚労省ホームページをご確認ください。
(こちらのQRコードから閲覧できます。)



※従来の健康保険証も、有効期限内はこれまでと同様にご利用いただけます。
※マイナカードの健康保険証利用には申し込みが必要ですが、病院に設置している顔認証付カードリーダーからもお手続きができます。
※マイナ保険証利用の場合でも、各種医療証(公費負担医療受給者証、乳幼児医療費証、特定疾病療養受領証等)は従来通り窓口でのご提示をお願いします。

「水戸日赤でお産」という選択肢

産婦人科医と経験豊富な助産師たちが、妊婦さんを一丸となってケアします。ハイリスクでないかたも、里帰り分娩のかたも、当院でのお産を歓迎します。

産科の電話予約について

受診希望の妊婦さんからの電話予約を受け付けております。

☎ **029-221-5177(代)**

受付時間 9:00~16:30(月~金)

※休診日(土・日・祝日など)を除きます。

「産科外来の予約を希望」とお伝えください。



就任のお知らせ

下記の医師が就任いたしました。よろしくお願いいたします。

【令和7年10月1日付】

はまざき じゅんいち 整形外科 濱崎 純一	なかいずみ さとみ 産婦人科 中泉 聡美
くまざわ けいこ 産婦人科 熊澤 啓悟	みた まりこ 産婦人科 三田 真理子

【令和7年11月1日付】

いしかわ ゆみこ
外科 石川 結美子

退任のお知らせ

下記の医師が退任いたしました。大変お世話になりました。

【令和7年9月30日付】

すぎやま まさき 第二産婦人科部長 杉山 将樹	やすだ ももか 産婦人科 安田 百花
こうの あき 初期臨床研修医 河野 亜希	いけざわ しゅんすけ 整形外科 生澤 俊輔

読者アンケート×プレゼント企画!

病院広報誌「虹」をより良くするために、皆さまのお声をお聞かせください。アンケートに回答いただいた方の中から抽選で10名様に、**ハートラちゃんフィギュアキーホルダー(左写真)をプレゼント**いたします!ぜひご協力をお願いいたします。

1分アンケートにご協力をお願いします!

こちらのQRコードを読み取って回答いただけます。
回答期限は令和7年12月10日までです。



理念と基本方針

理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神のもとに全人的医療の提供に努め、患者の皆さまの権利を尊重します。

基本方針

1. 地域に愛され、信頼される病院として、皆さまとともに歩み続けます
2. 安全かつ良質な医療の提供に努めます
3. 患者の皆さまの権利を尊重します
4. 赤十字の使命に基づき、救急医療及び災害救護の充実に努めます
5. 健全な経営に努め、働きやすく活気あふれる職場づくりに取り組みます



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

水戸赤十字病院

〒310-0011 水戸市三の丸3丁目12番48号

TEL: 029-221-5177(代表)

FAX: 029-227-0819(代表)

編集: 水戸赤十字病院広報委員会

発行責任者: 事務部長 大高 幹夫

◆診療受付 初診/8:30~11:00

再診/7:30~11:00

◆診療開始 8:30 ※診療科、曜日によって例外があります。ご注意ください。

◆休診日 土・日曜日、祝日及びその振替休日、日本赤十字社創立記念日(5月1日)、年末年始(12月29日~1月3日)

映画「国宝」を観てきました。主人公喜久雄が任侠の家に生まれながらも芸の道で「国宝」となる物語は、遺伝や宿命といった「血筋」と、それを乗り越えようとする個人の意志の葛藤を描いています。これは、医師が日々の診療で患者さんと向き合う際に感じるテーマと重なります。遺伝性の疾患や家族歴がリスクとなる病気を診る時、私たちは患者さんが背負う「血筋」の重みと、その運命に寄り添いながら最適な治療法を探求します。

また、この映画では「老い」と「死」が深く描かれています。全盛期には素晴らしい芸を見せていた役者が、病に倒れ、身体が衰えることで舞台から降りる姿は、医師が日常的に向き合う現実そのものです。前立腺肥大症や膀胱がんなど、多くの泌尿器科疾患は高齢になるにつれて発症リスクが高まります。身体機能の衰えを自覚し、時に絶望を感じる患者さんの心に寄り添い、苦痛を和らげるために尽力することは、私たちの重要な役割です。

作中で描かれる糖尿病の描写も示唆に富んでいます。全身の血管に影響を及ぼし、腎不全に至ることもあるこの病は、歌舞伎の華やかな世界とは対照的に、人間の「生」と「死」、そして「身体の限界」をリアルに突きつけます。

喜久雄が自身の身体を酷使して芸を極めていく姿は、時に危険なほどですが、それは、私たちが患者さんの身体を「命」と「健康」という観点から見つめる視点と深く共鳴します。この映画は、私たちに「人は、何のために生き、何を成し遂げようとするのか？」という根源的な問いを投げかけているように思います。そして、その問いは、医療という分野においても、常に私たちに突きつけられている問いでもあるのです。

水戸赤十字病院 院長 野澤 英雄



第28回 地域医療支援病院運営委員会を開催しました

令和7年9月10日(水)、当院災害研修室において第28回地域医療支援病院運営委員会を開催いたしました。水戸市長や県中央・水戸市の両保健所長をはじめとする5名の外部委員の皆さまにご臨席を賜り、活発な意見交換が行われました。

委員の皆さまから頂戴いたしました貴重なご意見を参考に、当院は今後も地域医療支援病院としての役割を果たしてまいります。



SDGs報告

アイシティecoプロジェクトへのご協力に感謝!

当院は、令和7年5月26日から、HOYA株式会社アイケアカンパニーが取り組む環境保護活動「アイシティecoプロジェクト」に参加しています。使い捨てコンタクトレンズの空ケースを資源として回収するこの取組は、7月発行の広報誌「虹」第54号でもご紹介しました。

患者さま、地域の皆さま、そして職員の協力により、これまでに1,620個の空ケースをアイシティに提供することができました。



この活動に対し、この度「コンタクトのアイシティ スタッフ一同」様より感謝状をいただきました。

皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。

回収した空ケースの売却代金は全額、公益財団法人日本アイバンク協会へ寄付されます。地球環境の保全と社会貢献のため、今後も引き続き空ケースの回収にご協力をお願いいたします。



3号棟1階眼科外来前に回収ボックスを設置しています!

